

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年11月13日

【四半期会計期間】 第44期第2四半期  
(自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 株式会社王将フードサービス

【英訳名】 OSHO FOOD SERVICE CORP.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 渡 邊 直 人

【本店の所在の場所】 京都市山科区西野山射庭ノ上町294番地の1

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

(注) 上記は、登記上の本店所在地であり、本社事務は、下記の最寄りの連絡場所で行っております。

【最寄りの連絡場所】 京都市山科区西野山射庭ノ上町237番地

【電話番号】 075(592)1411(代表)

【事務連絡者氏名】 総務本部副本部長 稲 垣 雅 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第43期 第2四半期 累計期間	第44期 第2四半期 連結累計期間	第43期
会計期間		自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高	(百万円)	37,548	38,475	75,078
経常利益	(百万円)	2,850	2,636	5,801
四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純利益	(百万円)	1,809	1,710	3,839
四半期包括利益 又は包括利益	(百万円)		2,287	
純資産額	(百万円)	42,061	44,980	43,832
総資産額	(百万円)	58,439	65,273	64,727
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	95.64	91.35	203.92
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	72.0	68.9	67.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	4,312	2,449	8,551
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,528	1,127	2,527
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	4,379	1,266	1,588
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	5,710	11,918	11,741

回次		第43期 第2四半期 会計期間	第44期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	61.21	61.16

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、第44期第2四半期連結累計期間及び第44期第2四半期連結会計期間については連結経営指標等を、第43期第2四半期累計期間及び第43期第2四半期会計期間並びに第43期事業年度については個別経営指標等を記載しております。また、第43期第2四半期累計期間及び第43期事業年度の四半期包括利益又は包括利益については記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」が事業活動を開始したため、連結の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たな経営上の重要な契約等の決定・締結又は契約内容の変更等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調が続いており、世界経済においても政策効果に支えられた中国経済の持ち直し、資源価格の上昇、米国における在庫調整の進展等を背景に緩やかな回復が続いております。しかしながら、地域紛争や国際テロに起因する地政学リスクが顕在化し、諸外国の政策に関する不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要があるなど、先行きは決して予断を許さない状況にあります。

外食業界におきましては、外食売上高が13か月連続プラスとなったものの、東京での21日間連続降雨や台風列島縦断など天候不順による客足への影響や、長雨・日照不足による野菜価格の高騰、最低賃金改定や人手不足等による三大都市圏のフード系アルバイト時給の過去最高更新等から、商品価格を引き上げる企業が相次ぐなど、先行きは依然厳しい見通しとなっております。

このような状況下当社グループは、これまで3年をかけて取り組んできた労働環境の整備をベースに営業力強化を図るべく4つの営業方針（「店頭をスッキリさせる」「店舗を美しく保つ」「お客様へ歓迎が伝わる接客を行う」「料理のスタンダードを守る」）を定め、QSCの向上に取り組んでまいりました。さらに職務権限と責任の明確化、効率化とスピード化、各部門の連携強化を図る為の4本部制（営業・総務・人事・製造）の導入や、それらを統括し戦略機能を担う「経営戦略本部」の新設、店舗社員の教育を担う「王将大学」の設立など、全員が一致団結し、ブランド価値向上を目指す組織体へと改変をいたしました。それらに加え、「創業50年お客様感謝キャンペーン」等販促効果も相俟って、7月からの3か月連続で直営全店売上高が同月比で過去最高を更新することができ、創業50周年を迎えるにあたり、更なる飛躍への一步を踏み出すことができました。

また、台湾1号店「餃子の王将 高雄漢神巨蛋店」は、連日ご盛況を得ており、売上高は期初の計画に対し200%を超え、大変好評を博しております。このような状況を踏まえて、台湾における更なる展開に備えるべく、当該子会社への増資を実施いたしました。

株主の皆様には、配当性向50%の株主還元方針をお示しし、実質利回りの向上により

当社株式への投資魅力を高めるとともに、株主様に中長期的に保有していただくことを目的として株主優待制度を拡充いたしました。

今の当社があるのはステークホルダーの皆様のおかげであるという感謝の気持ちを忘れず、お客様から「褒められる店」を目指し邁進して参ります。

当第2四半期連結累計期間の店舗展開の状況につきましては、直営11店、FC1店の新規出店を行っております。これにより第2四半期末店舗数は、直営497店、FC232店となりました。

#### 売上高

売上高は、来店客数は減少となりましたが、客単価アップが寄与しており、直営店既存店売上高が増収となった上、新店効果も相俟って、384億75百万円（前年同四半期比2.5%増）となりました。

#### 営業利益

営業利益は、人件費や減価償却費の増加等もあり、25億38百万円（前年同四半期比4.8%減）となりました。

#### 経常利益

経常利益は、上記理由等により、26億36百万円（前年同四半期比7.5%減）となりました。

#### 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、上記理由等により、17億10百万円（前年同四半期比5.5%減）となりました。

なお、当社は前第2四半期累計期間では四半期財務諸表を作成しておりましたが、第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」が事業活動を開始したため、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。従いまして、前年同期間との比較は前第2四半期累計期間の個別四半期財務諸表と比較した前年同四半期比を参考として記載しております。

## (2) 財政状態の分析

### (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における総資産の残高は、652億73百万円となりました。

流動資産は、141億95百万円となりました。主な内訳は現金及び預金が119億26百万円であります。

固定資産は、510億77百万円となりました。主な内訳は土地が208億57百万円、建物及び構築物が142億83百万円であります。

### (負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、202億92百万円となりました。

流動負債は、166億17百万円となりました。主な内訳は短期借入金が50億円、1年内返済予定の長期借入金が29億38百万円であります。

固定負債は、36億75百万円となりました。主な内訳は長期借入金が22億34百万円であります。なお、借入金の残高は101億72百万円となりました。

### (純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、449億80百万円となりました。主な内訳は利益剰余金が383億12百万円であります。以上の結果、自己資本比率は68.9%となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、119億18百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、24億49百万円（前年同四半期比43.2%減）となりました。主な要因は未払消費税等の減少であります。

主な内訳は、税金等調整前四半期純利益26億48百万円に減価償却費15億24百万円等を加えた額から、未払消費税等の減少額5億17百万円、法人税等の支払額9億11百万円等を減じた額であります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、11億27百万円（前年同四半期比26.2%減）となりました。主な要因は有形固定資産の取得による支出の減少であります。

主な内訳は、有形固定資産の取得による支出11億39百万円等によるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、12億66百万円（前年同四半期比71.1%減）となりました。主な要因は自己株式の取得による支出の減少であります。

主な内訳は、借入金の純減少額1億43百万円による支出、配当金の支払額11億23百万円による支出であります。

なお、当社は前第2四半期累計期間では四半期財務諸表を作成しておりましたが、第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」の事業活動を開始したため、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。従いまして、前年同期間との比較は前第2四半期累計期間の個別四半期財務諸表と比較した前年同四半期比を参考として記載しております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりであります。

(株式会社の支配に関する基本方針)

会社の支配に関する基本方針

上場会社である当社の株式は株主、投資家の皆様による自由な取引が認められており、当社の株式に対する大規模買付提案またはこれに類似する行為があった場合においても、一概に否定するものではなく、最終的には当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかしながら、近年わが国の資本市場においては、対象となる企業の経営陣の賛同を得ずに、一方的に大規模買付提案またはこれに類似する行為を強行する動きが顕在化しております。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、経営の基本理念、企業価値のさまざまな源泉、当社を支えるステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保、向上させる者でなければならないと考えております。従いまして、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案またはこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

当社では、多数の投資家の皆様に継続して当社に投資していただくため、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための取組みとして、種々の施策を実行しております。

これらの取組みは、会社の支配に関する基本方針の実現に資するものと考えております。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,286,230	23,286,230	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	23,286,230	23,286,230		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日		23,286,230		8,166		9,026

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋 1 - 23 - 1	2,053	8.81
ジャパンフードビジネス株式会社	東京都渋谷区恵比寿南 3 - 2 - 17	1,400	6.01
アリアケジャパン株式会社	東京都渋谷区恵比寿南 3 - 2 - 17	1,100	4.72
加藤 梅子	京都市山科区	611	2.62
加藤 ひろみ	京都市左京区	602	2.58
公益財団法人 加藤朝雄国際奨学財団	京都市上京区東上善寺町156番シャンポール 今出川	528	2.26
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 11	488	2.09
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町 2 - 11 - 3	348	1.49
王将フードサービス取引先持株会	京都市山科区西野山射庭ノ上町294番地の1	304	1.30
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海 1 - 8 - 11	273	1.17
計	-	7,709	33.10

- (注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。  
 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 488千株  
 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 348千株  
 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5) 273千株  
 2 当社は自己株式4,563千株(保有株式の割合19.59%)を保有しておりますが、  
 上記の大株主から除いております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,563,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,714,300	187,143	
単元未満株式	普通株式 8,530		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	23,286,230		
総株主の議決権		187,143	

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 王将フードサービス	京都市山科区西野山射 庭ノ上町294番地の1	4,563,400		4,563,400	19.59
計		4,563,400		4,563,400	19.59

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
代表取締役社長 兼 営業本部長	代表取締役社長	渡邊 直人	平成29年7月12日
専務取締役 執行役員 経営戦略本部長 兼 情報サービス部長 営業本部 王将大学 学長	専務取締役	上田 実	平成29年7月12日
常務取締役 執行役員 経営戦略本部 副本部長 営業本部 FC推進部長	常務取締役 執行役員 事業戦略本部長 兼 FC推進部長 兼 営業企画推進部長	是枝 秀紀	平成29年7月12日
常務取締役 執行役員 最高財務責任者 総務本部長 兼 総務部長 営業本部 海外事業部長	常務取締役 執行役員 最高財務責任者 管理本部長 兼 総務部長 兼 情報システム部長	木曾 裕	平成29年7月12日
常務取締役 執行役員 人事本部長 兼 情報システム部長 営業本部 ハートフル事業部長	常務取締役 執行役員 管理本部副本部長 兼 人事部長	池田 直子	平成29年7月12日
取締役 執行役員 営業本部 第1営業部長	取締役 執行役員 第1営業部長	杉田 元樹	平成29年7月12日
取締役 執行役員 営業本部 第2営業部長	取締役 執行役員 第2営業部長	門林 弘	平成29年7月12日

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

なお、当社は第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、比較情報を記載しておりません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

		(単位：百万円)
		当第2四半期 連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金		11,926
売掛金		406
商品及び製品		119
原材料及び貯蔵品		377
その他		1,400
貸倒引当金		34
流動資産合計		14,195
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物		51,992
減価償却累計額		37,708
建物及び構築物（純額）		14,283
機械装置及び運搬具		5,585
減価償却累計額		3,066
機械装置及び運搬具（純額）		2,518
工具、器具及び備品		5,453
減価償却累計額		4,475
工具、器具及び備品（純額）		978
土地		20,857
建設仮勘定		237
有形固定資産合計		38,875
無形固定資産		118
投資その他の資産		
投資有価証券		6,372
差入保証金		4,172
その他		1,562
貸倒引当金		22
投資その他の資産合計		12,084
固定資産合計		51,077
資産合計		65,273

(単位：百万円)

当第2四半期  
連結会計期間  
(平成29年9月30日)

<b>負債の部</b>	
流動負債	
買掛金	2,042
短期借入金	5,000
1年内返済予定の長期借入金	2,938
未払法人税等	1,202
賞与引当金	912
その他	4,521
流動負債合計	16,617
固定負債	
長期借入金	2,234
資産除去債務	743
その他	697
固定負債合計	3,675
負債合計	20,292
純資産の部	
株主資本	
資本金	8,166
資本剰余金	9,031
利益剰余金	38,312
自己株式	10,823
株主資本合計	44,686
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	3,866
土地再評価差額金	3,554
為替換算調整勘定	1
退職給付に係る調整累計額	15
その他の包括利益累計額合計	294
純資産合計	44,980
負債純資産合計	65,273

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)
	当第2四半期 連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	38,475
売上原価	11,616
売上総利益	26,858
販売費及び一般管理費	1 24,320
営業利益	2,538
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	31
F C加盟料	61
受取地代家賃	33
雑収入	58
営業外収益合計	185
営業外費用	
支払利息	12
賃貸費用	30
災害義援金	36
雑損失	8
営業外費用合計	87
経常利益	2,636
特別利益	
固定資産売却益	0
収用補償金	36
特別利益合計	36
特別損失	
固定資産除却損	24
特別損失合計	24
税金等調整前四半期純利益	2,648
法人税、住民税及び事業税	973
法人税等調整額	35
法人税等合計	937
四半期純利益	1,710
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,710

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)
	当第2四半期 連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	1,710
その他の包括利益	
其他有価証券評価差額金	584
為替換算調整勘定	1
退職給付に係る調整額	5
その他の包括利益合計	576
四半期包括利益	2,287
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	2,287
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)	
当第2四半期 連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	2,648
減価償却費	1,524
貸倒引当金の増減額（は減少）	0
退職給付に係る資産の増減額（は増加）	5
受取利息及び受取配当金	32
支払利息	12
収用補償金	36
固定資産売却損益（は益）	0
固定資産除却損	24
たな卸資産の増減額（は増加）	56
仕入債務の増減額（は減少）	49
未払消費税等の増減額（は減少）	517
その他	317
<b>小計</b>	<b>3,305</b>
利息及び配当金の受取額	32
利息の支払額	12
収用補償金の受取額	36
法人税等の支払額	911
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,449</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の増減額（は増加）	1
有形固定資産の取得による支出	1,139
有形固定資産の売却による収入	0
貸付けによる支出	24
貸付金の回収による収入	25
差入保証金の差入による支出	69
その他	78
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,127</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入れによる収入	2,249
長期借入金の返済による支出	2,393
配当金の支払額	1,123
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,266</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	53
現金及び現金同等物の期首残高	11,741
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（は減少）	124
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>11,918</b>

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より子会社「王将餐飲服務股份有限公司」及び「株式会社王将ハートフル」が事業活動を開始したため、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

第1四半期連結会計期間より、四半期連結財務諸表を作成しているため、「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」を記載しております。

1 連結の範囲に関する事項

子会社は2社であり連結しております。

連結子会社 王将餐飲服務股份有限公司、株式会社王将ハートフル

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

王将餐飲服務股份有限公司及び株式会社王将ハートフルの決算日は12月31日であります。四半期連結財務諸表を作成するに当たっては各社の四半期決算日現在の四半期財務諸表を使用し、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

...期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

...移動平均法による原価法

たな卸資産 総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10年～38年

機械装置及び運搬具 6年～10年

無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員及びパートタイマーに支給する賞与に充てるため、当四半期連結累計期間に負担すべき支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外子会社の資産・負債は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他四半期連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

下記のフランチャイズ加盟店オーナーの金融機関等からの債務に対して、次のとおり保証類似行為を行っております。

当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)	
(株)DDTダイニング	2百万円
達也(有)	5
(株)マーメイド	25
個人オーナー 1名	20
計	53

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
給料手当及び賞与	4,936百万円
雑給	5,872
賞与引当金繰入額	883
貸倒引当金繰入額	4

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	11,926百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	7
現金及び現金同等物	11,918

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,123	60.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月30日 取締役会	普通株式	1,123	60.00	平成29年9月30日	平成29年12月1日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、中華事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第2四半期 連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	91.35円
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,710
普通株主に帰属しない金額(百万円)	
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,710
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,722

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

第44期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）中間配当について、平成29年10月30日開催の臨時取締役会において、平成29年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	1,123百万円
1株当たりの金額	60.00円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年12月1日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月8日

株式会社王将フードサービス  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木村幸彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中田信之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社王将フードサービスの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成29年7月1日から平成29年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社王将フードサービス及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。